

会報

こぶし

発行 花北地区
コミュニティ
協議会
編集 総務企画部会

秋の研修バス旅行(報告)

花北地区コミュニティ協議会が主催する令和6年度の花北地区「秋の研修バス旅行」を、去る10月5日(土)、大型観光バス1台に参加者37名が同乗し実施したので、ご報告します。

近年、野生鳥獣(シカ、イノシシ、サル、クマ、アライグマ、ハクビシン、ネズミ等)による被害が全国で増加し、特にクマによる被害事例が多く聞かれ、人間生活環境と自然環境との共生が求められていることから「盛岡市動物公園ZOOMO(1989年4月開園)」の園内を一時余り散策し、ツキノワグマについて配布された「クマの生態」の資料とにらめっこしながら観察したところでした。

環境省の資料によれば、国内には北海道に生息する「ヒグマ(11,700頭程度)」、本州と四国(九州は絶滅)に生息する「ツキノワグマ(12,000頭程度)」がいますが、30年間で生

総務企画部会

息頭数が1.3〜1.4倍に増加したと言われています。今年は、花北地区にもツキノワグマが出没し、緊急被害防止対策がとられたようですが、令和5年は東北地方の山の「どんぐり(ブナ科の実)」が凶作でクマなどの餌が極端に不足



ツキノワグマが太陽あたる岩の上で腹ばい

し、クマ類による人身事故が過去最多(岩手県46件、秋田県62件)となったとのことです。盛岡市動物公園ではイノシシ、ハクビシン等の動物も目の前で見る事ができたので、野生動物とバッタリ出会ったときの怖さや対処方法も自分なりに考えたと思います。

一方、地場産業振興と次世代に技術をつなぐための人材育成、技術伝承の重要性を学ぶため「盛岡手づくり村(1986年5月開業)」の現地を実際に見学し、南部鉄瓶、食品製造等の製品作りを担う職人育成の重要性について学習し、認識を深める事ができたと思います。



盛岡手づくり村「南部せんべい工房」の前で

昨年1月、アメリカ合衆国のニューヨークタイムズ紙面に、世界で行くべき52か所に盛岡市がイギリスのロンドン市に次ぎ2位と紹介されたことをきっかけに、長引く円安(ドルやユーロ等の外貨に対して円の価値が下がること)の影響もあり、外国から多数の観光客が訪れているとのこと。

「冷麺づくり体験工房」では、長い行列ができ、自分で冷麺を作り昼食を楽しむ人々や、南部せんべいを自分で焼いてお土産にする姿が見られました。今回は、募集人数より少ない参加者でしたが有意義な研修バス旅行であったと思っています。

◆第32回

花北地区文化祭開催

教育文化部長 松田廣邦

天高く馬肥ゆる秋、芸術の秋、今年の文化祭は、お陰様で好天に恵まれた10月12・13日の両日皆様のご協力のもと開催することが出来ました。出点数は昨年に比べて若干少なめではありましたが、最終的には350点を超えておりました。入場者数は、初日は303名、2日目は198名と記録されており、沢山の地区民の方のご来場に嬉しさを感じたところです。例年小学校・中学校の児童生徒さんからの作品も展示してりましたが、今回は花巻北中学校の文化祭と重なったことから対応が難しく次年度への取り組みをお願いしたところです。それぞれの作品



展示作品を熱心に観る来場者の皆さん

に目を通しますと小学校一年生「あさがおとなかよし」の絵画には、純粋な子供の感性が表れており、「めざせはみがきめいじん」では、生き生きとした表情が描かれ子供らの素直な勢いを感じたところ。地域では様々な教室が開催されており、花巻人形・切り絵・ちぎり絵・染物等の作品が多く出品されておりました。墨の濃淡を生かした水墨画・繊細な筆致の水彩画・風景の一瞬を捉えた写真、まさに芸術の名に相応しいものだと思います。趣味としてのパッチワーク・編み物・絵手紙等も素敵です。書道や盆栽は、息の長い取り組みが必要で奥の深さを感じます。会場は、ホールのほかに三つの



着物と帯の結び方の紹介

場所で開催されました。とりわけ「華道」の部屋には、一種独特の清浄な雰囲気があり、静かさと空間の中に活かされた花々が凛とした姿形を保っていることに魅せられるものがありました。茶道・和装・男女節句物は日本の伝統、いつまでも続けて欲しいと思うものです。いつも楽しみにしているユニークな作品があります。「森の宝あそび」自然の中から集めた様々な木の実や葉っぱを擬人化、擬態化しユーモアを交えた作品構成は子供らに人気でした。地域の芸術感覚は、中々捨てたものではないようです。恒例の開会セレモニーではお箸の皆さんに花を添えています。

ただきました。多くの皆さんに支えられた文化祭の作品展示会が無事終了することが出来ましたことに改めて感謝申し上げます。

地区だより

星が丘一丁目夏祭り

星が丘一丁目夏まつり実行委員会

委員長 中園教一

枇杷沢川に隣接する「星が丘ふたご星公園」で、明るく元気に笑顔溢れる子供たち、冷え冷えの生ビールを片手に楽しそうに歓談する大人たち、沢山の地域住民の参加の下、天気にも恵まれ、この夏も熱く盛り上がった夏祭りでした。

風物詩となった公園の傾斜を活用した名物の「流しそうめん」には沢山の子供たちが群がり、やっとの思いですくい取ったそうめんに歓声を上げる姿に担当者も笑顔が溢れていました。

祭りの最後は町内のお店で使える商品券や食事券が当たる大抽選会で大盛り上がりしました。用意した屋台、飲み物・生ビールは予定時間より1時間も早く完売となり、担当者の嬉しい悲鳴がありました。それもそのはず、物価高



名物の流しそうめん

騰の最中、各屋台の食べ物・飲み物は全て100円、生ビール200円で提供、こんなリーズナブルな祭りが他にあるだろうか？その裏には屋台担当者の並々ならぬ苦労と工夫がありました。5月に夏祭り実行委員会を立上げ、色んな意見を踏まえ、参加者皆が「思う存分食べて飲んで楽しく」をモットーに取り組みました。一方で老若男女、猛暑の中、汗だくになりながら準備・設営に協力してくれた自治会員の力もありました。

そして、自治会、約9割の町内事業者の協賛があり、自治会・事業者・子供会・実行委員会が一体となって作り上げた夏祭りであった。この良き協力関係を維持し、安全で安心して暮らせる活気ある星が丘一丁目であることを願いつつ、未来を担う子供たちに取って、楽しい良き思い出の一時となったのではないかと思います。

子供会神輿復活へ

地区子供会 会長 三又康平

四日町一丁目一区・一日市地区子供会は、20数年前までは花巻まつりの際に子供神輿を運行していました。しかし、子供の参加人数の減少により、子供神輿の運行は行われてきませんでした。今年度の本地区子供会は6世帯と、決して多いとは言えない世帯数です。しかし、地区の皆様にとつて思い入れのある子供神輿を復活させたいと思い、自治会のご協力のもと準備を進めてきました。

前述の通り子供神輿は20数年間運行せず保管されていたため、(株)瀬川工務店さんによる神輿の修理から始まりました。夏休みには地区行事として神輿の色塗りをを行い、子供たちを含め地区で協力して神輿を再び作り上げました。色塗りを楽しむ子供たちの姿から、神輿の完成を待ち望んでいる様子が感じられました。

私自身も子供の頃に神輿を担いだ経験があるものの、これまで神輿づくりに関わったことはありません。今回、子供神輿を復活させるにあたり、四日町一丁目一区自治会の皆様や魂入れをしていたいただいた花巻神社様、他地区の方々などたくさんの方にご尽力いただきました。

本来であれば花巻神社例大祭にも参

加するべきでしたが、今年度は、地区内のみの運行としました。当日は、他地区からも参加いただき、30数名で子供神輿を運行することができました。子供たちにとつて初めて担ぐ神輿は想像よりも重く、また、大声で掛け声をかけながら練り歩くのはとても大変なことだったと思います。しかし、運行後の子供たちからは、楽しかった、また、来年もやりたい、といった声が聞けました。また、神輿運行の際には地区の皆様から温かいご声援をいただき、ありがとうございました。

今年度の活動を来年度にも活かし、より子供会行事を充実させていきたいと思えます。



子供会神輿の復活でみんなが大喜び

「ゾーン30」規制エリアについて

四日町二丁目 区長 金澤栄一

生活道路、通学路における歩行者等の安全な通行の確保を目的とする「ゾーン30」規制エリアが四日町一丁目二区・二丁目・三丁目に設定されて2年程になる。このゾーン内の生活道路は、桜台小学校の通学路に指定されている他、花巻北中学校、花巻北高校などの通学路としても利用されており、以前から安全対策の強化が望まれていた区域である。

「ゾーン30」については認知度がまだ低いと思われるが、資料によると、概略、次のような交通安全対策である。
① 区域(ゾーン)を定めて最高速度を30km/時の速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内の速度抑制や、ゾーン内を抜け道として通行する行為等の抑制を図る生活道路対策である。

② 行政、警察、学校等関係機関が連携して平成23年に整備目標が定められ、主として生活道路が集まった中に通学路が含まれる区域に整備が進められている他、高齢者、子供たちが利用する公共的な施設周辺や、多数の歩行者の通行が想定される観光施設等の周辺など、既に全国数千か

所に整備されている。

今回の「ゾーン30」設定により、何ら規制のなかった生活道路が最高速度30km/時に速度規制され、速度を抑制するイメージハンブ、狭さくポール、交差点を示すハンブ、カラー表示、路側帯のカラー表示等々が随所に施され、いやが応でも安全走行に対する意識が高まる道路環境になっている。花巻市内では、若葉小学校周辺エリアに次いで2例目とのことだが、ゾーン内の安全度が格段に高まったことは間違いなく、全国各地で通学路における痛ましい事故が後を絶たない状況下、「ゾーン30」が事故を未然に防ぐための有効な生活道路安全対策として更に普及が進むことを望みたい。



ゾーン30の道路表示(四日町二丁目付近)

敬老会活動について

一日市自治会 会長 佐藤直志

4月より、自治会の運営に関わることになりました。本稿では、敬老事業について紹介します。

役員会において敬老事業を具体化するための話し合いをしました。家庭をご訪問して祝意を伝える方法、公民館で敬老祭を実施する方法等が示されました。そこで、地区の方々に役員会の話し合いの経緯を伝えて敬老事業の在り方についてのアンケート調査を実施しました(図1)。回答者全員が、家庭を訪問して祝意を伝える方法に賛意を示されました。臨時役員会では、アンケート結果を踏まえて家庭を訪問して祝意を伝える方法に決定しました。さらに、「自治会だより」を作成して、地区の方々にお知らせしました。後日、敬老事業について、社会福祉協議会の職員から教えを受ける機会を得て、地区の方々の意向をアンケート調査で把握したことを評価していただきました。さらに、サロンをつくり、高齢の方々が気兼ねなく集まる場所を設けている地区があることを教えていただきました。日常の触れ合いが、自治会活動の活性化のために大切であることを学びました。

敬老事業に関わるアンケートの記述には、敬老事業にかける予算を若者の活動に振り向けて欲しいとありました。自治会の総会において、自治会の名称に「振興」を付け足したらどうかと意見が示されました。二つの考えは、活

力ある自治会を目指したいという気持ちの表れだと捉えました。まずは、私が行事に向けての取組の中で地区の方々と話をする機会を設けて合意形成を図りたいと思っています。同時に、決定に至るまでのプロセスを可視化することも大切であると感じています。こうした積み重ねの上に、「振興」という次のステップをどう踏めるのかが見えてくるのではないかと感じています。

1 アンケートの趣旨

自治会の皆様から、アンケートにご回答いただき、回答をふまえて自治会の関係役員で敬老祭のもち方について決めたいと考えたところです。

閲覧板にあるアンケート用紙に記入して封筒に回答用紙を入れてくださるようお願いいたします。関係役員で決めた敬老祭のもち方については、後日お知らせします。

2 アンケートに至るまでの経緯

5月12日に行われた役員会において、敬老祭について話題となりました。今年も昨年同様、集まりをもたずにお弁当と金券を配布する案が示されました。また、検討する時間をもち、実施計画を社会福祉協議会に提出する時期(8月上旬)までに考えようという案も示されました。二つの考えをもとに5月25日副会長の石原さんと私で協議し、アンケートを実施して、自治会の皆さんの考えを把握しようと考えたところでした。

3 アンケート協力をお願い

以下の内容のアンケートにご記入のうえ、切り取り線から切り離して、閲覧板にある封筒に回答を入れてくださるようお願いいたします。

切り取り

敬老祭のもち方について賛同する内容の記号に○を付けて下さい。

- ア 対象の方々に弁当、商品券、市からの記念品等を配布する。
- イ 対象の方々を公民館にお招きして敬老祭を実施する。
- ウ その他(ア、イ以外のもち方をお考えの方はご記入ください。)

(図1) アンケート用紙

花北山車制作と運行へのご協力に感謝

花北地区山車保存会 会長 大久保素志

例年にならない、本年も9月の第2金曜日、13日から3日間、花巻祭りがスタートした。昨年までは花巻神社例大祭に合わせ、9月6日に「にぎわい祭り」が行われていて、約一週間程早く山車作りを仕上げなければならぬこととなっていた。なぜか今年は開催されないとのこと。非常に残念で、また寂しい限りである。

山車制作については、手伝い動員メンバーが増えたこと、また、過去に制作した題材でもあり、波、飛沫などは毎年進化しつつも、余裕を持って制作に携われたと感じている。制作部メンバーの統率力によるのかもしれない。有難いことである。

祭りが始まるまでは、稚児募集に對しての応募状況、各地域の参加者動員状況、例年では一度は必ず雨に当たることから3日間の天候状況等、心配事は尽きないところである。いざ、蓋を開けてみて、心配事は吹っ飛んでしまった。稚児募集は十分集まり、各地域での動員も、連日1000人を超す状況で、嬉しい限りでありました。

しかしその背景には、囃子方の方々の苦労も大変で、衣装の貸し出し、関係する学校への連絡、父母への説明会の実施、保険加入の資料作り、半纏等の貸し出し等々雑用も多く頭の下がる

思いでいます。改めて囃子方部と総務の方々にはお疲れさまでしたと慰労の思いでいっぱいです。

また、3日間とも天候に恵まれ、さらに子供たちの頑張り、付添人や各地区から動員された多くの方々のご協力により、お陰様で全日程を無事故で全てを終了することができました。唯々感謝しかありません。本当に有難うございました。

最後に残念なことは、振興センターでのアルコール飲食の禁止で利用できなかったことです。地域での一大イベントであり、地域のための施設なはずなのに使用できないとは納得できません。酒を飲んで何か悪いことでもあったのですか。但し書きでも作って、利用できる方法でも出来ると良いのだが。



壇の浦・義経八艘飛びの体

◆編集後記

今回も多数の方々から多様な話題を投稿して頂き、深く感謝します。

「秋の研修バス旅行」は今回で14回目(県外5、県内9)とのこと。

近年、全国で鳥獣被害が増大している中、冬眠前のクマとバツタリ会わないよう注意しましょう。(編集長 戸来昭男)